



帯山小学校だより

No.8 R6.11.1 文責 校長 西方 浩一

富田宇宙先輩からのメッセージ

先月2日(水)、パリ・パラリンピックでの2個目の銅メダルを持って、本校卒業生の富田宇宙選手が来校されました。「ぜひ、子どもたちとの交流をしたい。」とのリクエストで、「歓迎会」を行いました。その中で富田選手から、①「ありがとう」を伝えるのは、自分が元気になるため。嫌な事にも「ありがとう」。②いつも笑顔でいる。笑顔でいると心がうれしくなる。③一生懸命を楽しむ。何でもいから一生懸命にやると楽しい。楽しいと頑張ることができる。というメッセージをいただきました。これは、贈られた子どもたちだけでなく、私たち大人の心にも響く言葉でした。



歓迎会後に、校長室で富田選手とお話したのですが「子どもたちの進行や言葉、話の聞き方や反応、校歌など、日本全国回っているけれども、こんなにすごい学校はめったにない。卒業生として誇らしい。」と語っていただきました。うれしいですね。

また、機会があれば、PTAと協力して講演会でもと考えています。富田選手への感謝の気持ちを込めて、今後のご活躍をみんなで応援しましょう。

帯中校区のすごさを実感！合唱部の活躍



先月20日(日)の校区運動会の日、県立劇場で熊日学生音楽コンクール(合唱の部)が行われました。私もその時間だけ運動会を抜けて応援に行きました。子どもたちの成長は著しく、歌声がそろっていることに感動しました。結果は、帯山中が最優秀賞(大賞)、帯山西小と本校が優秀賞。帯中校区のすごさを実感したところです。小学校で蒔かれた愛の花の種が中学校でも育っていることがとてもうれしいです。帯山の誇りですね。

全国学力・学習状況調査の結果から

今年の全学調の結果をじっくりとみてみました。学力の結果は、平均正答率が、国語は全国平均並み、算数は全国平均を5ポイント上回るという結果でした。また、本の所有量や新聞を読む習慣も全国や県に比べて高い数値でした。



今回、注目したのは児童質問の結果です。「当てはまる」と最も肯定的に答えた本校6年生児童の割合を見ると「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれている」「将来の夢や目標がある」「人が困っている時、進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「学校に行くのは楽しい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」等の結果が、県や市の平均に比べて高い割合でした。自尊感情や自己有用感が高い、困っている人や地域社会の役に立ちたい、夢を持ち楽しく学校生活を送っているなど「ウェルビーイング」な子どもたち。本当に頼もしい限りです。

この結果は、日々の授業をはじめ、様々な集会・委員会活動や行事、部活動、ソーシャルスキル、教育相談、そして、PTAや地域の行事等を通して培われたものです。これからも学校・保護者・地域が一体となって愛の花の種を蒔き続けましょう。